

## 令和元年度オリンピック・パラリンピックに関する授業

9月25日(水) 物が見えなくなっていくという経験をしながらもチャレンジを続け、誰もが住みやすい社会づくりのために活動している方の話を聞き、自分の在り方を考える機会としました。

講師の**初瀬 勇輔さん(株式会社ユニバーサルスタイルおよび株式会社スタイル・エッジMEDICAL 代表取締役)**は19歳で病気のために右目がほとんど見えなくなり、その後左目も中心部が見えなくなりました。しかし、中学・高校で経験していた柔道に打ち込むことで前向きとなり、国内外の大会で優勝、2008年北京パラリンピックに出場を果たしました。視力の障害のために就職活動では120社で不合格になった経験から、障害のある人となない人をつなぐ会社を作り、誰もが排除されない社会の実現のために活躍しています。

### ◎講演の概要

友人が入院中に毎日来てくれたり、大学への送り迎えをしてくれたりして、一人では無理なことも仲間と夢を追いかければできると思えた。就職活動を通じ、障害があることがこれほど高いハードルになるものかと知り、障害のある人と会社をつなぐ役割をしようと考えた。東京2020オリンピック・パラリンピック大会は社会が変わっていくために大きな可能性をもつ大会だと感じている。チャレンジはいつでもできるし、いつからでも遅くない。障害のある人となない人が混ざり合い、障害があることであきらめなくいい社会に変えていきたい。

### ◎視覚障害柔道の実演

アシスタントの学生さんと、体育館中央の畳の上で実演をしていただきました。見えないので組んでから始めるという説明の後に、パン!という痛快な音で決まる投げ技に、生徒たちは「おお~!」と歓声を上げていました。

★「人間の可能性は無限大」 初瀬さんは、東京2020パラリンピック大会出場を目指していること、パラスポーツは人生において長く続けられることをお話しされました。

◎生徒からの質問は、柔道を選んだ理由や、パラリンピックに出たいと思ったきっかけについてでした。柔道の畳の上は見えなくても安心して動き回れること、またいろいろな大会で負け続けたときに、悔しくて大きなパラリンピック大会で勝ちたいと思ったことを話してくださいました。さらに、どうやって苦難を乗り越えたのかを聞かれると、家族や友達の支え、柔道を通して自分と向きあい、自分がいて良かったんだと思える経験をすることで乗り越えられたというお話をされました。★どんなに高い壁にぶつかっても、寄り添ってくれる人がいて一緒に目標をもてば、人は強くなることができ、それが人の魅力を作っていくのだと学ぶことができた素敵な御講演でした。

